



ナスの栽培



ナスはインド東部が原産とされており、高温多湿な三重県の気候に合った野菜の一つです。特に日照時間の長くなる春から夏に適した野菜です。
今月号ではナスの基本的な栽培方法についてお話ししていきます。

ナスの仕立て方

- ①1番花(果)の下の子芽を2本残す
(それ以外の子芽はかき取る)
- ②生育初期に収穫する1~2番花(果)は小さいうちに収穫し、株の充実を図る
- ③定期的に追肥を行い、乾燥期にはたっぷり水やりをする



ナスの樹勢見極めの判断基準！

果菜類の生長は自分の体を大きくしながら、子孫も残すという大変体力を消耗するものです。樹勢が弱ってくると栄養不足になり、いいナスを作れなくなるため、樹勢の見極めが重要です。

下記の3点が満たされていれば樹勢が強い(良い)証拠です。

- ①柱頭(緑)がおしべ(黄色)より長く出ている
- ②花びらが7枚ついている
(品種によって異なることも)
- ③生長点付近の葉っぱは紫色がかっている

